

チャレンジシート② 基本

解答

学習日

年

月

日

単 元		年 組 番
三年 万葉・古今・新古今	氏 名	
6 問		

1 次の特徴をもつ和歌集を漢字で書きなさい。

(1) 最初の勅撰和歌集で、平安時代に成立した和歌集。

答 古今和歌集

(2) 鎌倉時代に、藤原定家らによって編集された和歌集。

答 新古今和歌集

(3) 現存する最古の和歌集で、素朴な感動を生き生きと歌っているものが多い。

答 万葉集

2 次の語の前に置き、調子を整える枕詞を から選びなさい。

(1) 光・天・雲

答 ひさかたの

(2) 山・岩

答 あしひきの

(3) 母

答 たらちねの

ちはやぶる	いはばしる	あしひきの
たらちねの	ひさかたの	からころも

単 元		年 組 番	6 問
三年 万葉・古今・新古今	氏 名		

次の和歌と現代語訳を読んで、それぞれの 部に使われている表現技法を答えなさい。

- (1) 花の色は 移りにけりな いたづらに
わが身世にふる ながめせし間に

答 掛詞

(現代語訳) 桜の花もわたしの容姿も、すっかり色あせてしまった。長雨を眺めて、わたしが恋の悩みにぼんやりと日を過ごす間に。

- (2) ちはやぶる 神代もきかず 竜田川
からくれないゐに 水くくるとは

答 枕詞

(現代語訳) こんな奇妙なことは神代の昔にも聞いたことがない。竜田川の水を（流れる紅葉が）深紅のしぼり染めにするなどとは。

- (3) 大江山 いく野の道の 遠ければ
まだふみもみず 天の橋立

答 掛詞

(現代語訳) 母のいる丹後へ行く道は、大江山や生野があつて遠いので、まだ天の橋立を踏んだこともなく、母の文も読んでいません。

- (4) 御垣守 衛士のたく火の 夜は燃え
昼はきえつつ 物をこそ思へ

答 序詞

(現代語訳) 御所の門衛がたくかがり火のように、わたしの心も夜は恋の炎が燃えさかり、昼は消えてしまつて物思いに沈んでいます。

- (5) ひさかたの 光のどけき 春の日に
しづ心なく 花の散るらむ

答 枕詞

(現代語訳) 日の光ものどかな春の日に、桜の花はどうして落ち着いた心もなく、こんなにあわただしく散り急ぐのでしょうか。

- (6) 瀬を早み 岩にせかるる 滝川の
われても末に 逢わむとぞ思ふ

答 序詞

(現代語訳) 瀬が速くて岩にせきとめられた滝川の急流のように、たとえ一度は二手に裂かれても、行く末には再び必ず会おうと思う。